

# はんだ山の風



卒後教育センター

2023年 初期研修医

オーダーメイドな研修プログラムで充実した臨床研修に取り組んでいます

## Contents

- |     |  |  |
|-----|--|--|
| P2  | 新任教授の紹介  | 小児外科 特任教授 澤井 利夫                          |
| P3  | 新任准教授の紹介   | 放射線診断科 特任准教授 尾崎 公美<br>検査部 部長 准教授 岩泉 守哉   |
| P4  | 病気ここが知りたい<br>「小児科で行っている専門診療」<br>「みみ・はな・のどの最新医療」    | 小児科学講座 教授 宮入 烈<br>耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 三澤 清 |
| P5  | 「浜松医大歯科口腔外科ってどんな時にかかればいいのか?」                       | 歯科口腔外科 教授 増本 一真                          |
| P5  | 心理療法という取り組み —心理療法の中で何が起きているのか—                     | 児童青年期精神医学講座 特任助教 井上 淳                    |
| P6  | 退職のごあいさつ   | 麻酔科蘇生科 講師 牧野 洋<br>内分泌・代謝内科 講師 佐々木 茂和     |
| P7  |  | 眼科学講座 講師 永瀬 康規                           |
| P7  | 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内(第31・32・33回)                 | 医療福祉支援センター地域連携室                          |
| P8  | 腫瘍センターだより「オンラインがん相談、はじめました」                        | 腫瘍センター 副センター長 講師 柄山 正人                   |
| P9  | 看護部「地域で暮らす患者さんの暮らしを支える」病院と訪問看護ステーションの連携を深める新たな取り組み | 集中治療部・救急外来 看護師 村上 諒<br>2階西病棟 看護師長 西野 麻紀  |
| P10 | 医師トータルサポートセンターの紹介                                  | 医師トータルサポートセンター 特任講師 谷口 千津子               |
| P10 | なんでも相談窓口開設   | 看護師長 高田 なおみ                              |



当院は日本医療機能  
評価機構認定病院です。  
(一般病院3)

病院紹介動画は  
こちらから



### 浜松医科大学における小児外科医療の発展を目指して

小児外科 特任教授 澤井 利夫



令和5年(2023年)7月1日付で小児外科特任教授を拝命いたしました。私は大阪大学を平成元年(1989年)に卒業し、大阪大学小児外科に入局いたしました。

大阪大学附属病院、大阪府立病院(現大阪急性期・総合医療センター)で研修を重ね、平成4年(1992年)4月に博士課程に入学いたしました。胎児の創傷治癒『瘢痕を残さないのはなぜか?』をテーマに創傷治癒の際の細胞外基質に着目し、創を作成したウサギ(成体と胎仔)の細胞外液を経時的に採取し、その成分のヒアルロン酸濃度が成体に比べて胎仔で高いことを証明しました。ヒアルロン酸はグリコサミノグリカンの一種で水分を豊富に抱え込むことができ、組織の再生を容易にする細胞外環境を整えることができると考察いたしました。

博士課程修了後の平成11年(1999年)、米国ミシガン大学外科学講座小児外科部門に留学する機会を得ました。ここでは粘膜免疫がテーマとなり、粘膜モデルを使った粘膜透過性の研究を行いました。細胞培養で粘膜モデルを作成し、その粘膜面にリン脂質や免疫グロブリンを作用させることで、粘膜透過性や細菌透過性に変化を来すことや、リゾリン脂質がPKC/Ca<sup>2+</sup>によってタイトジャンクション透過性に関与している可能性を明らかにしました。また、リン脂質をリゾリン脂質に変換するホスホリパーゼという酵素が炎症性腸疾患の粘膜で高値であることが知られており、帰国後の兵庫医科大学で『粘膜モデルを使った炎症性腸疾患の病因・病態の基礎的研究』として科学研究費補助金 基盤研究(C)を獲得することができました。また、消化管粘膜面にあるリン脂質に着目し、令和4年(2022年)科学研究費補助金 基盤研究(C)で『新生児壊死性腸炎の新たな病因および治療：消化管サーファクタントの関与の検討』が採

用されました。

帰国後、平成13年(2001年)大阪大学附属病院で臨床の研鑽を再開し、兵庫医科大学から再び大阪大学、近畿大学奈良病院、同大学大阪狭山本院、そして奈良県立医科大学を経て、本院にまいりました。

現在、臨床研究として、NCD(National Clinical Database)を用いて、小児外科分野だけでなく他分野も包含して日本全国の小児急性虫垂炎症例の現状を把握し、その予後について日本小児外科学会認定施設と非認定施設での違いがあるか否かを明らかにする研究計画を立てた結果、日本小児外科学会および日本外科学会で許可を得ることができましたので、現在データの抽出および分析を進めているところです。

臨床については、すぐ近くに小児外科の老舗といえる聖隷浜松病院があり、離れて静岡県立こども病院があるという、我々、浜松医科大学小児外科にとって厳しい環境ではありますが、本院の小児科やNICUの先生方と力を合わせ、この地域で“小児外科といえば浜松医科大学附属病院”の名が最初に挙がる存在となることを目指していきたいと考えております。

さらに、我々が働く姿を見て、本学の医学生から小児外科医を志し、小児外科に進んで専門医取得までに至ることが、本学において「小児外科」が受け継がれ、継続性のあるものになったといえます。そのため、医学生から魅力的と思われる小児外科を目指します。

先のふたつの研究を進めながら、学生や研修医の教育を行い、「小児外科専門医」を輩出し、地域や他科と連携して小児にとって最良の医療を提供してまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 画像診断による診療の質の向上を目指して

放射線診断科 特任准教授 尾崎 公美



令和5年(2023年)4月1日付で放射線診断学講座の特任准教授を拝命いたしました。

私は平成14年(2002年)金沢大学を卒業後、金沢大学医学部放射線医学教室に入局しました。そのまま同学で大学院に入学し、平成23年(2011年)3月金沢大学医学博士課程を修了しました。その後も長く金沢大学関連病院で研鑽を積んでおりましたが、縁あって4月より浜松医科大学に赴任いたしました。

現在の診療において画像検査は、ほぼ必須の検査となっており、受診した患者さんのほぼ全員が何らかの画像検査を受けるともいえます。こういった状況下で、我々画像診断医は患者さんを直接は診察しませんが、画像検査の選択や撮像の適切な管理、適確な画像診断によって、診療において重要な役割を担うと考えています。

画像検査は単純写真、CT、MRI、核医学検査を含めて多岐にわたり、画像診断においては各々の

モダリティで全身の解剖、疾患、病態生理の幅広い知識を必要とされ、かつ疾患の解明を含めた医学の進歩にともない、常に知識のアップデートが必要であるという非常にやりがいのある仕事です。また、画像検査及び診断領域は、近年は人工知能の実用化が進んでいる医療分野の一つですが、人工知能の発達及び応用を診療に有益な形で活かすにも我々画像診断医の力が必要と考えており、現状に甘んじることなくよりレベルの高い診療を目指しています。

若輩で微力ではありますが、静岡県を中心とした地域の診療のみならず、講座内の医局員の皆さんと協力し、医学生や若手医師の教育、研究活動にも力を注ぎたいと考えております。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 臨床検査から医療の発展を目指して

検査部 部長 准教授 岩泉 守哉



令和5年(2023年)7月1日付で検査部長、准教授を拝命しました岩泉守哉と申します。私は平成11年(1999年)に本学を卒業後、本学第一内科に入局し、本学附属病院および関連病院で消化器内科の研修を受けました。本学大学院修了後は米国で3年間、UC San Diegoおよびミシガン大学でJohn M. Carethers先生のご指導のもと、大腸がんのマイクロサテライト不安定性に関する研究に従事するとともに、ミシガン大学Cancer Genetics Clinicでがんの遺伝カウンセリングに定期的に陪席し、臨床遺伝医や遺伝カウンセラーとのディスカッションを通して遺伝医療を学びました。帰国後、杉本健先生率いる本学第一内科消化器グループに帰局し、消化器内科医、臨床遺伝医として従事していたところ、前川真人先生から臨床検査、特に遺伝子関連検査学のご指導を頂くご縁があり、平成29年(2017年)から臨床検査医として現在まで従事しております。

臨床検査は臨床化学、臨床血液学、臨床微生物

学、臨床免疫学、遺伝子関連検査学、臨床生理学といった幅広い領域をカバーしています。また、個別化医療に必要な遺伝子関連検査など先端的手法・高度の医学的判断を必要とする臨床検査が増加してきました。このような中、平成30年(2018年)12月、検体検査の品質・精度の確保の規定も含まれた「医療法等の一部を改正する法律(平成29年法律第57号)」が成立し施行され、検体検査の品質・精度を確保するため、厚生労働省が定める基準に従って検体検査を実施すべきことが法令上制定されました。

様々に優れた技能・知識を有する約40名の本学附属病院検査部臨床検査技師と協働し、臨床検査の質を担保しつつ、現場で抽出された課題を通してイノベーションへの目利き力を磨き、臨床検査から世の医療の発展に貢献できるよう努めてまいります。何卒ご指導よろしく願いいたします。



## 小児科で行っている専門診療

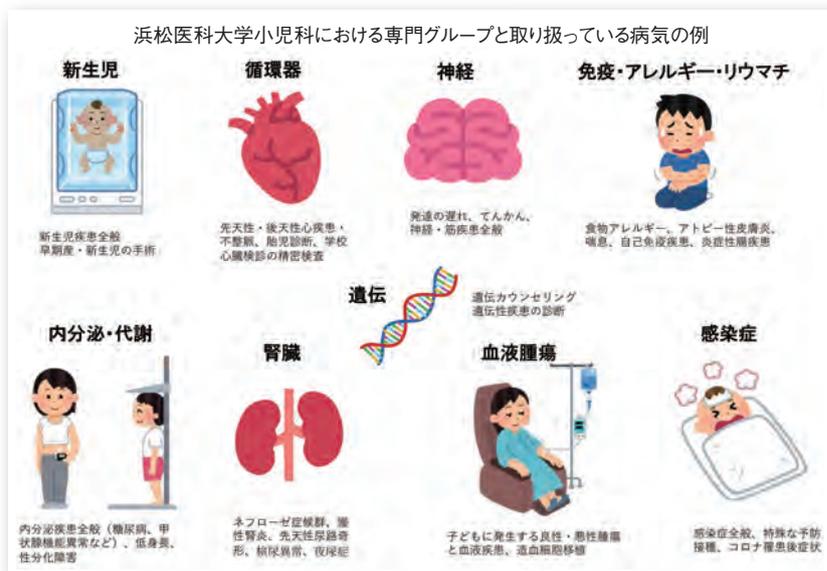
小児科学講座 教授 宮入 烈



小児科医は、すべての子どもたちが、成長と発達の過程で直面する種々の困難を克服し、幸せな人生を手に入れることを支える存在です。子どもには成人とは異なる特殊な病気があって、大人の専門領域と同じくらいの数の専門領域があります。そのため、本院小児科では、すべての医師が子どもの総合医としての能力を磨きながら、分野ごとのスペシャリストをそろえています。

大学病院には小児科専門医が30人いて、さらに新生児、神経、循環器、腎臓、内分泌、遺伝、免疫、アレルギー、血液、腫瘍といった領域の専門医のもとで診療を行っています。また、病院の中では、小児外科、整形外科、眼科、精神科神経科に小児領域の専門家がいるため、連携して診療を進めています。なお、

令和4年(2022年)1月から先端医療センターが稼働して、新生児の集中治療や術後ケアを最新の設備で行うことができるようになりました。



## みみ・はな・のどの最新医療

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 三澤 清



耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、聞こえ、呼吸、摂食、発声など、多くの生活の質(QOL)に密接に関わる領域の疾患を対象にしています。今回は、QOLに関連する最新治療について、ご紹介したいと思います。

まず、補聴器を使用しても十分に聞き取りがよくなるような高度の難聴ですが、人工内耳により聞き取りが改善します。人工内耳手術は、音を感じる感覚器官である蝸牛に電極を挿入します。以前は蝸牛の1/3くらいにしか電極を入れていませんでしたが、最近では、蝸牛の2/3くらいの長い電極を挿入し、さらに蝸牛の構造をできるだけ損傷しないように電極を挿入することが重要であると報告されています。そのため本院では、蝸牛の機能や構造を温存してできるだけ長い電極の人工内耳を挿入しています。

次に、鼻閉は様々な原因で起こりますが、国民病とも言われるアレルギー性鼻炎が代表的な疾患となります。近年、アレルギー性鼻炎に対する新

しい治療が登場し、選択枝の幅が広がっています。体質を根本から改善する舌下免疫療法は、症状の安定が長期間見込める治療として注目されています。鼻炎症状を引き起こす神経を切断する後鼻神経切断術も、速効性が高い治療です。重度のスギ花粉症には抗IgE抗体治療が適応となり、一回の注射で高い満足度が得られます。このような、患者さんの状態に合わせて、最適な治療を提案できるように取り組んでいます。

最後に、昨年より高難度新規医療技術として、頭頸部アルミノックス治療(光免疫療法)が可能となっています。再発頭頸部がんに対して、光に反応する薬剤「アキシャルックス®」を点滴後、翌日にレーザー照射を行います。治療後4週間は直射日光をさけていただきますが、低侵襲であり、ご高齢者にも適応となる治療法となります。

今後も、耳鼻咽喉科・頭頸部外科はQOLを大切にしながら診療に取り組んでまいります。



## 浜松医大歯科口腔外科って どんな時にかかればいいのか？

歯科口腔外科 教授 増本 一真



歯科口腔外科は歯科の中で手術を担当する診療科です。皆さんに最も身近な手術といえる親知らずの抜歯や顎顔面外傷、歯科インプラントを担当しています。今回は当科の主な専門分野である口腔がんと顎変形症について簡単ではありますが、お話しします。

口腔がんは他のがんと同様に早期発見が極めて重要ですが、そのためには患者さんが受診を躊躇しないことが何より大切です。早期口腔がんとの判別が困難な通常のアフタ性口内炎や義歯による褥瘡性潰瘍であれば約2週間で軽快します。潰瘍が2週間以上経っても軽快しない場合は専門医療機関を受診してください。口腔がん治療は早期である程患者さんの負担が小さく予後も良好なため望ましいのですが、当科では進行口腔がん治療も積極的に行っております。本院では歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、形成外科、リハビリテーション科によるチーム医療で患者さんにベスト

な治療をご提供できる体制を整えています。

顎変形症は重度の下顎前突症(受け口：写真)や上顎前突症(出っ歯)等で、通常の歯科矯正では直せない患者さんに対して手術で顎の骨を切って治療します。当科での治療は原則保険診療となりますので、気になっておられる方はかかりつけ医を通して本院へご相談ください。



下顎前突症

## 心理療法という取り組み

### 心理療法の中で何が起きているのか

児童青年期精神医学講座 特任助教 井上 淳



心理療法とは、治療者と患者さんが相互に交流をする中で、協働しながら、患者さんの抱える心の問題の解消を試みるプロセスです。心の問題や課題は目に見えず、主観的なものですが、患者さんにとっては、切実に苦しさとともに感じ取られています。この“主観的なものを扱うこと”に心理療法の特徴があります。

心理士は、患者さんが理解してほしいと思っているように、その主観的な苦痛をなるべく正確に理解しようと努めます。しかし、心理士と患者さんは異なる人間ですので、患者さんと同じように感じ取ることはできず、理解には必ずずれが生じます。加えて、患者さんの体験と言葉の説明の間にもずれが生じます。それは、言葉は体験を100%表現できないからです。心理士は、自分の理解を患者さんの主観的な体験に近づけようと努力し(患者との対話)、患者さんは自分の言葉を自分の主観的な体験に近づけようと努力をします(患者の自己

内対話)。この二重の対話のプロセスの中で、患者さんは、自分の体験のあり様について、自己理解が促進され、時に自分が気づいていなかったことにも気づきが生じます。一見ただの会話にしか見えないと思いますが、優れた心理療法は、こうしたプロセスが積み重なっています。

本学および附属病院では、非常勤を含めると30名程度の心理士が勤務し、必要な方には積極的に心理療法を導入できる体制をとっており、精神科神経科のみならず、周産母子センター、緩和ケアチーム、小児科、肥満減量外科、いたみセンター、保健管理センターなど、多様な領域で活動をしています。心理療法は、地道で目立たぬ活動ですが、患者さんの心の健康や医療への満足度に資することができる活動と考えています。

## 浜松医大に育てられ、感謝の24年

麻酔科蘇生科 講師 牧野 洋



私は24年前の平成11年(1999年)の春に旭川医科大学を卒業し、浜松医科大学に入職いたしました。入職した当時の麻酔・蘇生学講座二代目教授故 佐藤重仁先生には麻酔科医としての基礎を作っていたいただき、また、米国留学に送り出してくださいました。留学から帰国後すぐに化膿性脊椎炎を病み、二か月近くベッドから一步も下りられない状況となり、一時は死の恐れにも取りつかれました。しかし、松山幸弘病院長に執刀していただいたことにより無事仕事に復帰でき、まさに「生きなおす」ことができました。復職後には、幸いなことに薬理学講座の梅村和夫教授に共同研究のお声がけをいただきました。薬理学・脳神経外科と麻酔科で共同研究ユニットHARUを組み、留学先での研究を継続・発展させることができましたのは、HARUメンバーのお陰です。麻酔・蘇生学講座三代目教授 中島芳樹先生が就任されたのと同じ年に、私も医局長を拝命致しました。中島教授には大変ご迷惑をおかけしながらも、管理面で多くの事を学ばせていただきました。その他にも、看護師、事務やコメディカルの皆様には書き尽くせないほどお世話になった24年間でした。

私は令和5年(2023年)7月から出身校である旭川医科大学麻酔・蘇生学講座に教授として赴任することとなりました。浜松医科大学の皆様にご育ていただきましたご恩を十分にお返ししないうちに異動することに、申し訳ない気持ちでいっぱいですが、感謝の気持ちを忘れずに、赴任地で微力を尽くしてまいりたいと思っております。

浜松医科大学の一層の発展をお祈りするとともに、皆様に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

(※令和5年6月退官時の職名で掲載させていただいております)



2006年 佐藤教授と国際学会にて



中島教授、牧野医局長、共に仕事始めの日に新人の皆様と

## 浜松の空の下で

内分泌・代謝内科 講師 佐々木 茂和



私は第二内科の先代教授であった中村浩淑先生に呼んでいただき、平成10年(1998年)8月1日に米国留学から帰国し、本学第二内科(内分泌・代謝内科)の助教(当時は助手と言いました)として採用していただきました。米国ワシントンDCのダラス空港でタラップの大きな扉(ハッチ)がガシャーンと閉まった時、「どうして帰っちゃうのよー」と家内が泣きじゃくったことを思い出します。それからアツという間の25年1ヵ月でした。本学ではいろいろな研究や臨床経験をさせていただきました。大学院を過ごした京都大学、3年4ヵ月過ごした米国NIH(アメリカ国立衛生研究所)では、遺伝子の転写がどうのこうのという事ばかり考えていました。そんな訳で臨床経験は乏しく、当初は(実は今も!)緊張の日々でした。何より患者さんたちには多々ご迷惑をおかけし、また職員の皆さんにもたくさん助けていただきました。

気づけば64歳になってしまい、令和6年(2024年)3月には定年の予定となりました。やり残した研究は道半ばで、京都に戻って研究生になって続けるつもりでした。ところが(少なくとも京都大学の)研究生では持っていた科研費の継続はできない、新規申請もできないことがわかりました。そんな中、名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院というところから特任教授のお声掛けがあり、令和5年(2023年)9月1日から異動する事になりました。

最近では老眼による視力低下が著しく、また暗算ができなくなりました。イイ年をしての単身赴任。体力も続かかわりません。家内からは「私を放っておいて、いつまでやってんのよ?」と言われ、返す言葉がありません。そして20年以上にわたり診療させていただいた患者さんたちの中には、「それじゃ、お互い元気でねー」とお別れすると、感無量です。きっと浜松の澄み切った青空と一緒に思い出すでしょう。今はただ、本学に残す事になってしまった大学院生の研究成就を見届ける事、そして自分自身は名古屋市立大学の片隅で実験らしきものを少しでもさせてもらえたらと念じています。最後に、何も残せなかった内分泌・代謝内科グループですが、今後ともご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

(※令和5年8月退官時の職名で掲載させていただいております)



内分泌・代謝内科



内分泌・代謝内科  
甲状腺グループ

## 『浜松医大の眼科と私』

眼科学講座 講師 永瀬 康規



新潟大学医学部を卒業後、平成15年(2003年)に浜松医科大学眼科学講座に入局し、20年が経ちました。私の出身は三島市ですので、浜松という新たな土地で新たな社会人として、眼科医としての期待を膨らませてスタートを切ったことを今は懐かしく思います。

最初の頃の仕事は慣れない部分も多く大変でしたが、眼科医20年間で最も濃厚に刺激の多かった1年でした。同期5人で協力し合い苦難を乗り越えたこと、多くの先生方に御指導いただいたこと、力は先輩方に及ばないものの患者さんの気持ちに寄り添って診療させていただき患者さんから



手術風景

感謝の言葉をいただいたことなど、眼科医としての自分の原点となっています。

20年の間には浜松医大眼科の関連病院の聖隷浜松病院、磐田市立総合病院、成田記念病

院にも勤務いたしました。市中病院では大学病院より眼科医の人数が少なく、ひとりの眼科医の力が多く求められることを実感し、より強く責任感をもって診療に向き合いました。多くの患者さんの診療や手術に携わり、白内障手術を基本とした手術手技を習得し、眼科医としての経験を積むとともに、多くの先生方やスタッフと携わり社会人としての人間形成をさせていただきました。

平成23年(2011年)より浜松医大に戻り、今までの経験をもとに後輩の指導にあたりつつ、硝子体手術を中心として微力ながら浜松医大を支えてきました。また非常勤として浜松労災病院、丸山病院、佐久間病院などにも勤務させていただきました。

今後は磐田市の開業医として、地域医療に貢献させていただきます。堀田教授をはじめとした医局員の方々、関連病院や開業医の先生方、スタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

(※令和5年8月退官時の職名で掲載させていただいております)

## 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内 (医療従事者向け)

診療科長の先生を中心に、本院の特長とも言える診療内容を紹介しております。各医療機関の皆さまのご参加をお待ちしております。(12月の開催はありません)

開催回	開催日時	講師	申込締切
第31回	10月18日(水) 19時30分~20時30分	 放射線診断学講座 教授 (兼)医療情報部 部長 五島 聡 先生 「浜松医科大学が進める医療DX」	10月17日(火)
第32回	11月15日(水) 19時30分~20時30分	 血管外科 科長(兼)講師 犬塚 和徳 先生 「下肢の静脈疾患について ~基本から最新治療まで~」	11月14日(火)
第33回	1月24日(水) 19時30分~20時30分	 いたみセンター特集 「演題未定」	1月23日(火)

**事前申し込み方法：** メールまたは申し込みフォームにてお申し込みください。

詳細は本院ホームページ（地域連携Webセミナー）をご確認ください。

<https://www.hama-med.ac.jp/hos/cent-clin-fac/med-welfare-sprt-ctr/reg-med-liaison/web.html>



**お問い合わせ：** 地域連携Webセミナー担当事務局（地域連携室内）

電話：053-435-2637 FAX：053-435-2849（平日8：30～18：00）

E-mail：tiren-seminar@hama-med.ac.jp

# 腫瘍センター だより

## オンラインがん相談、はじめました

腫瘍センター 副センター長 講師 柄山 正人



「24時間いつでも気軽にできるがん相談」を目指し、令和5年(2023年)6月より腫瘍センターと株式会社ZINEが共同で「浜松オンラインがん相談」を開始しました。スマートフォンを使って専用webアプリ上で行うがん相談です(パソコンでも可能)。患者さんだけでなくご家族の方も、何回でも無料で利用できます。医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種で構成するオンラインがん相談チームを立ち上げ、ZINEの専属アドバイザーとともに相談支援に取り組んでいます。チャット形式で行いますので、「医療者との対面では恥ずかしくて・遠慮して言えない」、「医療相談室に行く時間がない」といった方でも、利用しやすいのが特徴です。

だけで対応することが難しくなっています。患者調査によると、相談者の背景、相談内容や相談時期(治療前・中・後)によって、患者さんが求める相談相手や相談しやすい媒体(対面、電話、メール)が大きく異なることが報告されています。



現在のがん医療においては、多様化するがん患者さんの悩みに応えることができる多様な相談システムが求められています。オンラインがん相談の利用者は、本院のがん相談支援センターと比較して、若年で女性の割合が多く、相談内容は日常生活、副作用、人間関係の悩みが多く、転院や在宅医療の相談が多いがん相談支援センターとは大きく異なります。

「がんとの共生」の時代、従来の対面のがん相談だけでは、十分にサポートできない多様な悩みに応えるための新しいサービスとして、「浜松オンラインがん相談」をお役立ていただけますと幸いです。



医学の進歩により、がん患者の予後が延長し、多種多様な治療選択肢の中で長期の闘病生活を送るようになった現代のがん治療においては、「がんとの共生」が重要なテーマとなっています。がんとの共生する時代の患者さんが抱える悩みは、就労・就学、人間関係・恋愛、費用・社会保障、副作用・生活など非常に多岐に渡ります。現代のがん患者さんが抱える多様な悩みは、病院の対面相談



詳しくはホームページをご覧ください  
<https://cancerwith.com/hama>



## 「地域で暮らす患者さんの暮らしを支える」 病院と訪問看護ステーションの連携を深める新たな取り組み

本院では令和4年度(2022年度)から病院と訪問看護ステーションとの相互の交流を行っています。

訪問看護ステーションで研修を受けた村上看護師と、訪問看護師を病棟カンファレンスで受け入れている西野看護師長からお話を聞きました。

### 訪問看護出向研修での学び

#### 集中治療部・救急外来 看護師 村上 諒

令和4年(2022年)10月から3カ月間、「訪問看護ステーション細江」へ出向し、訪問看護師として活動しました。深く印象的だったのが「できるだけこの家で過ごしたい。ここで育ったから、ここでろうそくの灯が消えるように死にたいの」と話されていた方がいたことでした。こういった希望を引き出し、叶えるためには、退院支援に関わる病院の看護師が、入院中から先を見据えた情報提供や意思の確認を行うことがとても重要だということを知りました。そして、地域で生活する患者さんを支えるためには多職種連携が必須であり、多職種と顔の見える関係になることが大切であることを実感しました。出向を終え集中治療部に勤務した際、入室した患者さんが在宅療養を希望されていることを知り、多職種・他部署と連携して意思決定支援を行い、無事自宅退院につなげるこ

ができました。今後も地域の皆さんが安心して希望する生活場所へ移行できるよう、在宅を見据えた退院支援の普及に努めてまいります。



訪問看護ステーションや介護施設のスタッフ向けにBLS研修を行いました

### 訪問看護師とともに暮らすという視点で患者さんに寄り添う

#### 2階西病棟 看護師長 西野 麻紀

今年度より2階西病棟では、毎週開催している病棟の退院支援カンファレンスと心不全カンファレンスに地域の訪問看護師に参加していただいています。病棟看護師とは違った“暮らす”という視点で様々な助言をいただき、治療方針や家族の介護状況の確認、退院後の療養先の検討について多職種で話し合っています。

この取り組みを通し、患者さんが望む療養先でその人らしく生活するために、患者さんとその家族の希望や思いを病院から地域に繋げていく大切さを学びました。そして入院時から、患者さんとその家族の意向やどう暮らしていきたいのかを確認できるようになってきました。

今後は、退院前カンファレンスを通して、ケアマネジャーや訪問看護師と顔の見える、お互いに

相談できる関係を築き、患者さんのために病院と地域が連携し、シームレスな退院支援に取り組んでいきたいと思っています。



訪問看護師が参加している病棟カンファレンスの様子

## 医師トータルサポートセンターの紹介

医師トータルサポートセンター 特任講師 谷口 千津子



当センターは女性医師が仕事と家庭を両立するための情報提供や復職支援、学生との交流会や講演会などの啓蒙活動、病児保育の運営など様々な形で医師の両立に関わる活動をしています。ここ数年は女性医師だけでなく、男性医師も父親として子育てに関わりたい、親の介護について相談したい、定年後の就業相談など、子育てだけではなくご相談が寄せられるようになってきました。そこで、支援は男女関係なく必要ではないかという議論から「女性医師支援センター」は令和5年度(2023年度)から『医師トータルサポートセンター』と改名することとなりました。

どんな立場の方でも仕事と家庭の両立の中で困ったときにご相談いただけるセンターとして、気持ちを新たに活動しています。

ご相談のある方、活動にご興味のある方はふじのくに女性医師支援センターHPやFacebook, Instagramもご覧ください。

**ふじのくに女性医師支援センターHP**  
<https://www.fujinokuni-w.jp/>



医師トータルサポートセンター



医師トータルサポートセンターのメンバー

## なんでも相談窓口開設

これまで、本院の相談窓口は外来棟1階の医療福祉支援センターにありましたが、病院をご利用になる皆さんがいつでも気軽にお声かけいただける相談窓口として、令和5年(2023年)6月1日、病院正

看護師長 高田 なおみ



面玄関になんでも相談窓口が開設されました。窓口には、看護師と医療ソーシャルワーカーと事務職員が常駐し、相談内容に応じて各相談窓口や当該部署へのご案内を行います。

医療に関する相談だけでなく、次回の予約の確認や帰りのバスの時間や道順など、その名の通りなんでもお伺いいたします。開設より毎日平均80件程度のご利用がありますが、多い日には140を超える人が窓口を訪れます。

来院における気がかりや心配事など、些細なことでもお気軽にご利用ください。

**設置場所：外来棟2階正面玄関、自動支払機横**  
**開設時間：平日8時30分から17時00分**



丁寧な対応を心がけています。なんでもご相談ください

# 外来診療日一覧

2023.10.1現在

受付時間 午前8時30分～11時 一般外来・専門外来  
午後0時30分～2時 専門外来

○：午前  
◆：予約のみ

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
内科 受付電話 435-2632 ※神経・難病センター受付電話 435-2484											
一般内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ 水曜日：午前のみ
※脳神経内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
肝臓内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ 木曜日：午前のみ
血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
※免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ
IBDセンター	◆		◆		◆	◆		◆		◆	
家族性消化器腫瘍外来				◆						◆	
脳神経病態外来	◆					◆					
感染症専門外来			◆					◆			午後のみ
禁煙外来	◆					◆					※2021.7～休診
ペースメーカ外来											予約のみ 要問い合わせ
ピロリ菌外来	◆										午後のみ
合併症外来								◆			
精神科神経科 受付電話 435-2635											
初診・再診		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	
専門外来 摂食障害専門外来 デイケア								◆	◆		※2020.4.28～休診
小児科 受付電話 435-2638											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
内分泌・遺伝		◆						◆			
内分泌		◆						◆			
心臓				◆	◆				◆	◆	
血液				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で
免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
神経	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
腎臓	◆			◆		◆			◆		
新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
乳児検診	◆					◆					
長期フォローアップ外来									◆		第4週のみ
特殊予防接種										◆	
小児外科 受付電話 435-2638											
初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆		
外科 受付電話 435-2641・2642											
心臓血管外科	○		○		◆	○		○		◆	
呼吸器外科			◆					◆		◆	
乳腺外科	◆	◆	◆		◆	◆	◆			◆	水曜日：家族性乳腺腫瘍外来(午後)
一般外科	○		○		○	○		○		○	
上部消化管外科		◆	◆					◆	◆		
下部消化管外科	◆					◆			◆	◆	
肝・胆・膵外科				◆	◆				◆	◆	
血管外科		◆			◆		◆			◆	金曜日：下肢静脈瘤
IBDセンター	◆					◆					
リンパ浮腫センター				◆						◆	
専門外来 肥満減量外来 緩和ケア外来	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
脳神経外科 受付電話 435-2644											
初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科 受付電話 435-2647											
初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
教授外来(脊椎)	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
骨粗鬆症				◆	◆				◆	◆	
リウマチ			◆	◆				◆	◆		
手・末梢神経			◆					◆			
脊椎	◆					◆					
腫瘍		◆						◆			
股関節					◆					◆	
肩関節					◆					◆	
膝関節・スポーツ					◆					◆	
小児整形	◆					◆					
ヘルニア							◆				

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
皮膚科 受付電話 435-2650												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	アトピー外来		◆	◆				◆	◆			
	脱毛症外来	◆		◆			◆		◆			
	乾癬外来		◆					◆				
	皮膚リンフォーマ外来				◆					◆		
泌尿器科 受付電話 435-2653												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆			◆	◆	◆		
専門外来	腎移植外来				◆					◆		医師交代制
	排尿障害外来		◆	◆				◆	◆			
	不妊症外来		◆		◆			◆		◆	◆	火曜日：第1、3、4、5週のみ
	腫瘍外来		◆	◆	◆			◆	◆	◆		
眼科 受付電話 435-2656												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火・金曜日：午前のみ
専門外来	網膜変性外来		◆					◆				
	斜視・弱視外来								◆			
	ロービジョン										◆	
	角膜外来									◆		第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659												
	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
専門外来	腫瘍外来	◆			◆	◆	◆					
	耳外来				◆					◆		
	耳鳴外来		◆					◆				
	難聴外来・人工内耳外来		◆					◆				
	睡眠時無呼吸・いびき外来					◆					◆	
	顔面神経外来		◆		◆			◆		◆		
	鼻副鼻腔・アレルギー外来				◆					◆		
	めまい外来			◆						◆		
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください												
	産科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	NIPT外来							◆				
	腹腔鏡外来				◆					◆		
	漢方外来				◆					◆		第1、2、4週のみ
	母親学級											予約制
	助産師外来											要問い合わせ
	乳腺予防ケア外来											(午後に産科婦人科へ)
A R T 室 受付電話 435-2664												
	不妊外来						◆	◆		◆	◆	
放射線科 受付電話 435-2665												
	放射線治療科 放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	放射線診断科 IVR外来		◆					◆				
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	いたみセンター	◆					◆					
リハビリテーション科 受付電話 435-2747												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	要問い合わせ 午前のみ
専門外来	義肢・装具外来			◆					◆			
	嚥下外来	◆		◆			◆		◆			午後のみ
	痙縮外来		◆		◆			◆		◆		
	高次脳外来	◆			◆		◆			◆		
形成外科 受付電話 435-2496												
	初診・再診	○	○	○	○		○	○	○	○		木曜日：リンパ浮腫
歯科口腔外科 受付電話 435-2673												
	初診・再診	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	唇顎口蓋裂外来			◆					◆			
	顎補綴			◆					◆			
	矯正歯科					◆					◆	専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。

浜松医科大学医学部附属病院